

7月のびんがら

起工式で安全を願う

6日、ソフトバンク苦東安平ソーラーパーク2（早来源武）新設工事に向けた起工式が執り行われました。

同施設は、ソフトバンクグループのSBエナジーと三菱UFJリースが合同で運営。2020年度中の運転開始を予定しており、約90万㎡の土地で一般家庭約1万9854世帯分の年間消費量に相当する電力を発電できることになるといいます。



今年のナンバー1は？

14日、北海道ホルスタイン共進会で、JAとまこまい広域ホルスタインショウが開催されました。

このイベントは、畜産農家相互の親睦と技術の向上及び地域住民に畜産への理解を深める目的で毎年開催されているものです。

今年も館内各所から集まったホルスタインが、その美しさを競い合いました。

まちの魅力がデザイン

JR北海道が20日から販売を開始した「わがまちご当地入場券」。道内でも多くの駅での取扱いが始まりましたが、町内では早来駅が選ばれました。

そして14日、JR北海道追分駅の高橋駅長がPRのため瀧町長を訪問。記念として高橋駅長から瀧町長へ入場券が寄贈されました。

SLや菜の花畑がデザインされており、安平町の魅力が詰まったデザインとなっています。



父母の故郷の

子どもたちへ

15日、大江電機株式会社大江光正社長（本社神奈川県）が追分小学校を訪れ、同校及びおいわけ子ども園にそれぞれ100万円の寄付を行いました。

今回の寄付は、創業者で父の菊四郎氏の生誕100周年と創業70周年を記念し、両親の故郷を訪問することを思いついたとのこと。

挨拶で大江社長は「故郷から離れることになっても、いつまでも覚えておいてほしい」とお話ししてくれました。

地域の小学生が提案

21日、追分地区幼小連携事業がおいわけ子ども園で行われました。

この事業は「ぼくらの遊び場プロジェクト」と題され、追分小学校6年生がおいわけ子ども園に作る水場のデザインを考えるというもの。6つのグループに分かれ、アイデアを発表しました。

発表を聞いた山城義真おいわけ子ども園長は「面白いアイデアだった。遊びたくなる園庭のデザインの参考にしたい」と講評しました。

